

## 令和3年度 出雲市戦没者追悼・平和祈念式典 戦没者追悼・平和祈念のことば

本日ここに飯塚市長様をはじめ、ご来賓の皆様ご臨席のもと、出雲市戦没者追悼・平和記念式典が挙行されるにあたり、出雲市遺族会を代表いたしまして、謹んで追悼の言葉を申し上げます。

さて、時の流れは早く、終戦から七十六年を迎えました。先の大戦においては、若き命を、身体が凍りつくような厳寒の地で、また鉄を溶かすような灼熱の島等々で我が国では三百十万人、出雲市におきましては六千二百四十四人の尊い命を祖国のために捧げました。

平穏であった家庭も、一瞬にして一家の大きな柱を失い、まったく先の見えない塗炭の苦しみと深い悲しみに陥り、残された家族は懸命に支え合いながら、苦難な長い道乗り越えてきました。

時は過ぎ、あれから七十六年、我が国は今、戦争を知らない国民の多くの人々によって支えられ、又、われわれ遺児も高齢化をし、一層先の大戦が風化していく様相であります。

今日の平和と豊かな暮らしが享受できますのも、尊い命を、国の礎となって、戦地で散った多くの犠牲のもとに成り立っている事を忘れてはなりません。

激動の昭和から受け継いだ平成、そして今、新しい令和の時代となりました。たとえ、どんな時代がこようと、未来永劫にわたり、常に恒久平和を願いながら、戦争の惨禍が再び繰り返されないためにも、戦争の悲惨さ、命の尊さをしっかりと胸に刻みながら、英霊の顕彰に努めていきたいと思っております。

現在、遺族会も遺児の高齢化によりまして、年々減少傾向にあります。こうした中、次世代を担う孫、ひ孫の皆さんのご理解ご賛同をいただきまして、本年、孫・ひ孫の会を結成いたしました。これからはみなさんと共に英霊の顕彰、組織の維持に努めていく所存でございます。

終わりにあたりまして、ここに出雲市戦没者追悼・平和祈念式典を開催していただきましたこと、重ねて心より深く感謝を申しあげまして、追悼のことばといたします。

令和3年8月11日

出雲市遺族会 会長 天野 勲